

風土記の丘の花だより¹⁴⁵

今、そしてこれから見られる植物(2022年7月30日)

暑い日が続きますが、先日ツクツクボウシの声を聞きました。昔は8月の末ごろに鳴き出して、慌てて夏休みの宿題をやったものですが、最近はいろいろなものの季節感が違ってきていますね。



谷山家住宅の庭で真夏の花ミソハギが咲き始めました。名前にハギと付きますが、ハギの仲間ではありません。ハギはマメ科、ミソハギはミソハギ科の植物です。漢字では「襖萩・みそぎはぎ」と書きますが、それに関係するのか、お盆にこの花をお供えする習慣もあるようです。花の少ない暑い季節、この花は何となく涼しげです。



この時期になるとツユクサを紹介したくなります。青い花はとても少なく、この他には春先に咲くオオイヌノフグリしか思い浮かびません。このツユクサ、青い花びらだけがよく目立ちますが、それに隠れて白い小さな花びらもあります。昔は「つきくさ」と呼ばれていました。それは布をこの花で染めると色が付くからとか、夜に咲くので月草とかの説があります。万葉集に、つき草に 衣は摺らむ朝露に めれてののちはうつろひぬとも という歌が残っています。



園内のあちらこちらにオレンジ色のヒオウギが咲いています。葉の付き方が「檜扇・ひおうぎ」に似ているので名付けられました。秋には真っ黒な実が熟し、それを「ぬばたま」といいます。同じく万葉集には、居明かして 君をば待たむ ぬばたまの 吾が黒髪に 霜は降るとも という歌があります。



谷村家住宅の西の斜面でシャシャンボの実が見られます。これはツツジ科の木で暑くなると白い花を咲かせます。その後実ができて、秋が深まると黒く熟します。実は食べられますが、酸っぱくてそんなにパクパク食べられるような物ではありません。それにしてもシャシャンボなんて面白い名前ですね。 松下